

## 私のすすめるこの1冊

坂東 忠司 (理学科 教授)

### 『ほめると子どもはダメになる』

榎本 博明 (著)

「最近の若い先生は、すぐに潰れる。」教育関係者との話の中でしばしば耳にしているのは、私だけでしょうか？確かに20年ほど前の卒論指導などを振り返り比較してみると、最近では厳しく指導する(叱る)ことが極端に少なくなったように感じます。叱り方の難しさは、教育実習中の学生からもよく聞く話です。家庭や学校で子どもに指導する必要が出てきたとき、どのようなタイミング・ことば・思いで対応すれば良いのか、瞬時に判断して行動できる人になればどんなに素晴らしいでしょう。こう考える人は多いのではないのでしょうか。

現在、子育てや教育に関する実に多くの本が出版されています。それらの中に納得のできる答えを求めて何冊かを読みました。今回ご紹介する表記のもの他に、新堀通也ほか(著)『今、子どもに何を - 育つ学力と耐性 -』、中村文昭(著)『履歴書には書けへんけど じつは一番大事なのは人間力や!』、奥村幸治(著)『超一流の勝負力 マー君とイチローが実践した「自分を超越する」思考法』、尾木直樹(著)『尾木ママの「叱らない」子育て論』、岸 英光(著)『「ほめない子育て」で子どもは伸びる』などです。どれをとっても人目を引くタイトルのつけ方には感服します。まるで、ルアーフィッシングです。そのルアーに、まんまと引っかかったのは優柔不断な私なのですが……。これらの本の中には、真っ向から対立するようなタイトルもありますが、著者の経験や考え方から一部が誇張されたタイトルになっているものの、内容的には子どもを育むという点で共通する部分も多々あります。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、今回ご紹介する一冊は、何でもかんでも「ほめて育てる」ことへの違和感から始まります。大学教員として教育心理学の研究に携っている著者は、自治体の家庭教育カウンセラー等の経験を通して、「ほめて育てる」や「叱らないで育て」と言われるようになってから子どもの育ち方が変わってきたこと、その結果として若者の心のあり方に変化が生じていることを実感するようになったと言います。ほめたりやさしい言葉をかけたりすることで中和しなければ子どもが厳しさに潰されてしまう欧米の父性原理に対して、日本では母性原理のやさしさを、言語的に距離をとることで中和しなければ子どもがやさしさの渦に飲み込まれて溺れてしまいます。このような文化的背景の違いをきちんと理解すべきであると著者は強調します。

また、「ほめて育てる」思想は、教育界にも親の間にも「ほめて育てることで自己肯定感を高めることが必要だ」という声が広まったことも取り入れられた要因の一つであるようですが、さまざまな調査データを比較してみると、現状を克服しようとする意欲が年々低下していることを示しており、自己肯定感の低下につながっていると分析されています。

著者の経験・見聞に基づく啞然とするようなエピソードに加え、随所に古今東西の多数の文献や調査研究資料を紹介しながら、子どもの将来を見据えた真の意味での教育のあり方を、私たち初心者にもわかりやすく説いている本だと思います。

ぜひ、ご一読ください。

報告

第26回

## うたとおはなしの会

平井 恭子 (幼児教育学科 准教授)



平成28年4月30日に第26回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は、朝から快晴に恵まれ、親子連れを中心に220人の参加者で会場は熱気に溢れた。

図書館長の挨拶に続き、「はるがきた」を歌いながら5人の学生が登場すると、会場からは大きな拍手がおこり、和やかな雰囲気のもと、春のうたとおはなしの会がスタートした。

最初のプログラムは、野菜のきぬさやくんとべいなすくんが、いつもかぶっている自分の帽子に飽きてほかの野菜の帽子ととりかえっこするという内容の「パネルシアター」である。きぬさやくんとべいなすくんが、パイナップルやとうもろこしなど、予想もつかない帽子をかぶって滑稽な姿になるたびに会場からはどっと笑いがおこり、次に登場する野菜をわくわくしながら待つ親子の姿が印象的だった。

続いて「キャベツの中から」を歌いながら、両手で青虫の家族を登場させる手遊びを楽しんだ後、絵本「はらぺこあおむし」を鑑賞した。今回は新沢としひこが「はらぺこあおむし」につけたメロディーにのせ、生演奏の音楽にのせて鑑賞を行った。「はらぺこあおむし」のうたは最近、幼稚園や保育所で頻繁にうたわれるようになったこともあり、音楽が始まると、弾き歌いする学生と一緒に歌をうたう子どもの姿が大勢みられ、おはなしも音楽も満喫している姿が印象的だった。

「はらぺこあおむし」のおはなしが終わると、会場の外から何やら楽しそうな笛の音が聞こえてきて、「なんだろう」と振り返ると音楽隊に扮した6名の学生がそれぞれ、楽器を吹きながら登場してきた。そして、音楽隊の学生が「ぶんぶんぶん」の演奏を始めると、会場の子もたちは得意げに歌って参加する姿が見られた。その後、子どもたち一人ひとりにも楽器が配られ、音楽隊の学生といっしょに会場が一つになって「ゆめをかなえてドラえもん」の歌を演奏した。楽器遊びに関して、1歳男児と一緒に参加した保護者は、「いろいろな楽器の演奏にふれる機会があって、子どもが大喜びでした」と感想を述べていた。

楽器遊びのあとは、「ちいさなはたけ」の手遊びを親子

で楽しみ、最後のプログラムでは人形劇「ともだちほしいなおおかみくん」を上演した。このおはなしに登場するおおかみは、「あかずきん」や「3びきのこぶた」に登場する「こわいおおかみ」とは違い、少しさびしがりやで心のやさしいおおかみである。しかしそうとも知らない森の動物たちは、最初はおおかみのことを理解できずにいたが、最後にはおおかみの優しさに気づき、ともだちになれるというストーリーである。中には「上の子が幼稚園の生活発表会で『ともだちほしいなおおかみくん』の劇をしたので見にきました」(4歳男児の母)という参加者もあり、人形劇に対する子どもたちの関心度は高く興味津々の様子であった。劇の途中で、おおかみが友達を助けるために「はっぱのうちわ」や「木の枝」を探しに行く場面は、参加者にも協力を要請し会場内を歩き回る演出を試みた。参加者からはそうした演出について「子どもも大人も一体感を得られ、とても楽しめました」(5歳児と3歳児の母)と好評いただいた。

最後に幼児教育専攻新入生20名が登場し、「ホ・ホ・ホ」を元気に合唱し、和やかな雰囲気のもとで会が終了した。帰りには、人形劇で登場した動物たちと写真を撮ったり学生が手作りした「あおむしくん」のおもちゃをお土産にもらって、嬉しそうに会話しながら帰る親子の姿が多く見られた。

終了後のアンケートでは「転勤ではじめて京都にきて不安でしたが、学生さん一人ひとりからたくさん元気をもらうことができ、前向きに生活することができそうです(9歳女児、5歳女児、1歳男児の保護者)」、「最後にみんなで歌った『ホ・ホ・ホ』、とてもいいですね。帰るのが残念で、次も是非!、…と、楽しみになりました(1歳女児の母)」など、学生たちの励みになる感想をたくさんいただいた。

2002年にスタートした「うたとおはなしの会」の取組は、長年にわたって地域の親子に親しまれてきたがその功績が認められ、昨年度、「京都はぐくみ憲章」実践推進者(事業者部門)として表彰を受けた。これまでこの会を支えてくださった参加者の皆さんに心から感謝すると同時に、これからも一つひとつの出会いを大切に、よりよい会となるよう努力を重ねていきたいと考えている。



## リクエストと投票で話題の本を読もう！

- (1)リクエストは常時受付しています。読みたい本をリクエストしてください。(学内者のみ)
- (2)リクエストのあった図書のうち、話題書や小説などの娯楽向け図書、および図書館職員が選んだ本などを館内に掲示し、毎月一定期間の投票で、得票数の多いものから購入します。

6月の投票期間は

**6月8日(水)～6月30日(木)**です。

図書館 1 階渡り廊下に掲示しています。

読みたい本に投票しよう！

(1日1ポイントまで)

## 佐藤学氏コーナー

『教師花伝書：専門家として成長するために』（小学館）などの著書で知られる教育学者・佐藤学氏の著書を集めたコーナーを設置しています。

【場所】1階渡り廊下

【期間】5月16日(月)～6月18日(土)

## 6月もあります！学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

【場所】北館2階ラーニングコモンズ

【時間】16:00～20:00の該当する時間

気軽に  
相談してくださいね！



## えほんのもり (場所：児童書コーナー)

今月の読み聞かせ会は、

**6月20日(月) 15:00～** です。

今月の絵本カードは  
こちら！

### 『みんなみんな みつけた』

木村 裕一：作  
黒井 健：絵

#### ★あらすじ★

きょうは もりのかくれんぼ。  
おにになったライオンさんは、次々と動物たちを みつけます。いろんなしかけがある楽しい絵本です。

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成しています。このほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ児童書コーナーに見に来てください。



## それはかなう夢講座 第1回

「先生になりたい - それはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、すべての領域専攻の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

【日時】2016年6月15日(水) 12:10～12:50

【場所】図書館1階 リフレッシュラウンジ

【講師】黒田恭史(数学科教授)

【テーマ】算数の文章題を解いているとき子どもたちはどこを見ているの？

《概要》計算問題に比べて、算数の文章題は子どもたちが苦手とする内容の一つです。では、いったい子どもたちは文章題を解いているとき、どこを見ているのでしょうか？

最新の視線を計測する装置では、目の動きをもとに、私たちがどこを見ているのかをリアルタイムに計測することができるようになりました。この装置を実際に子どもたちにつけてもらって、文章問題を解いているときの視線の動きを計測した結果についてお話しします。

おにぎり2個&お茶付き、先着30名！

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト準備WG

## 保育士試験対策コーナーのお知らせ

保育士試験の実技のうち「言語表現」の参考になる図書等をまとめて展示しています。

【期間】5月25日(水)～7月6日(水)

【場所】附属図書館 西館2階 館長室前

貸出もできます。

「絵本の探し方」についても説明しています！**必見！**

※音楽表現の課題曲の楽譜も数点展示しています。

## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品「ドッキング」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てください！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

今回の執筆者 **中野 英之**(理学科 准教授)

**地域の自然に関する科学的知見を教材化して児童の郷土愛を醸成する試み  
— 「霊山の古火山を復元する」授業実践 —**

中野 英之・林 孝亮・柴田 清・渡辺 光男  
京都教育大学紀要. 2016, No.128, pp.45-61

「霊山古火山の火道が見つかった。」福島で知り合った元高校地学教員の呟きが教材化の始まりであった。長きにわたる侵食に耐え残った古火山の頂を前にすると、火山形成時と現在の頂とをどうしても重ねてしまう。しかし、そうではない場合が少なくない。

福島県伊達市には、霊山という名峰が聳え立つ。霊山が古火山であることは地元でも良く知られている。しかし、筆者らが共同研究で訪問している大石小学校前の小高い丘である代皇山が霊山古火山の火道であることは地元の誰もが知らない科学的知見であった。この知見をうまく教材化に繋げることができれば、児童の火山についての理解を深めるだけでなく、郷土の自然への興味や関心を醸成できるのではないかと考えた。このような動機のもとに教材開発と教育実践を行ってまとめたものが本稿の内容である。

震災以降に開始した伊達市立大石小学校との共同研究では、本学を中心にこれまでに延べで50名を超える学生が同行してくれた。授業の補助はもとより、休み時間における学生の児童との関わりには目を見張るものがあった。どれだけ多くの児童が大学生に憧れを抱いて迎えてくれたことだろう。研究実践校における研究者のあるべき立ち位置も現場の先生方から教えられた。「答えは現場にある。」現場に寄り添った研究を学生ともう少しだけ続けていきたいと思う。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 128 号に掲載されています。  
※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

**開館日程** □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2016年6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6/1 創立記念日


2016年7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

7/6 館内整理日

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>



●携帯版図書館ホームページ (QRコード)   
<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

京教図書館 News No.189(2016年6月号)  
発行日:平成28年6月1日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp